

(24) 埋立てに伴う地形改変が大阪湾内部生産有機物の堆積過程に与える影響評価

予算

令和元年度 大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度

概要

大阪湾における内部生産有機物の堆積状況の変遷を明らかにするために、平成29年(2017年)度からの3年間で現場調査、既往知見調査、数値シミュレーションによる解析を行った。本年度は、過去2年で大阪湾広域および湾奥港湾域調査に加える形で、大阪湾に点在する浚渫窪地で堆積物調査を行った。その結果、窪地内に堆積している有機物は湾奥港湾部や広域的な高濃度域よりも多く、汚濁が進んでいた1970年代の高濃度域に匹敵する濃度であり、貧酸素・無酸素化の重要な要因となっていることが示唆された。近年、海面埋立てによる滞留の強化により、閉鎖性海域で栄養塩が消費され、沖合に栄養塩が十分に供給されないことが問題視されている。堆積有機物についても、地形改変によって生じた閉鎖性海域や浚渫窪地内に堆積した有機物が消費されることなくその場に留まることで、湾全体としては底生生態系のベースとなる堆積有機物の減少や、分解により再度水柱に供給される栄養塩の減少に繋がっていると考えられた。

担当者

秋山 諭、上田真由美、田中咲絵、横松宏幸、常本 修